



B. 修行時代 比叡山延暦寺

- ①源光
比叡山延暦寺西塔北谷の学僧で菩提寺観覚の旧友。観覚よりの送り状によって勢至丸を預かる。その送り状には「進上大型文殊像一鉢」と書かれてあった。
- ②皇円阿闍梨
比叡山延暦寺東塔西谷の功德院の学僧で天台の名僧のひとり。久安3年4月8日源光は天台の奥義を極めさせたいと考え、勢至丸を皇円の所へ入室させた。皇円は戒壇院にて勢至丸に大乘戒を授け、正式に僧侶とした。
- ③勢至丸
観覚の送り状を持って比叡山延暦寺の源光に入室する。その後、皇円阿闍梨の元で大乘戒を授かり正式に僧侶となった。16歳の時、皇円の勧めで天台三大部六十巻を読んだ。(15歳～18歳)
- ④叡空
比叡山延暦寺西塔黒谷の学僧。大原の良忍の弟子で円頓戒相承の正統伝灯者。皇円の元で正式に僧侶となった勢至丸は、18歳の時に名利の学問になるのを嫌い叡空の弟子となる。
- ⑤源空(勢至丸)
18歳の時、皇円阿闍梨にいとまごいをして、叡空の弟子となった。叡空は「これ法然道理の聖なり」と喜び、房号を法然房とし、名を最初の師の源光の上の字と叡空の下の子をとって源空と名付けた。(15歳～43歳)
- ⑥琵琶湖
元々は熊谷直実がこの地にて出家した時、鏡を洗った池で「鏡池」といわれている。
- ⑦坂本
比叡山延暦寺の門前町で勢至丸はここから登山したといわれている。

C. 浄土開宗・寺門興隆

- ①紫雲石
承安5年(1175)春彼岸の頃、43歳法然上人(源空)は比叡山を離れ当山上の大石に腰を掛けお念仏をされたところ紫雲光明四辺を照らす瑞相を感得し、「念仏弘通の有縁の地」とされ最初に草庵を結ばれた。
- ②法然上人(源空)
浄土宗宗祖で当山開祖。比叡山で修行をして念仏往生の教えを会得され、43歳にて浄土宗を開かれた。80歳にて入滅されるまで洛中はずもとより洛外にても念仏往生の教えを説かれ多くの弟子達も養成し、民衆からも圧倒的な支持を受けた。
- ③源智上人
当山前2世法然上人入滅二日前に懇願して「一枚起請文」を賜る。
- ④信空上人
当山後2世法然上人の一番弟子。随従すること56年。円頓戒相承とこの地(新黒谷)を法然上人から賜る。
- ⑤湛空上人
当山3世信空から円頓戒の戒統と新黒谷を継ぐ
- ⑥熊谷直実
源氏の武者一ノ谷の戦いで16歳の平敦盛を討ち取ったが世の無常を感じこの地の法然上人を尋ね出家し、庵を構えた。
- ⑦恵顛上人
当山5世多くの堂舎を建立し「紫雲山光明寺」と号した。
- ⑧運空上人
当山8世後光厳天皇の戒師となり円頓戒を授けた。天皇は叡信の余り「金戒」の二文字を下賜され、「金戒光明寺」となった。
- ⑨九條兼実
平安末から鎌倉初期の公家で摂政・関白も勤めた。法然上人の熱心な信者であり庇護者でもあった。法然上人の著書『選択本願念仏集』は兼実の懇請によるもの。
- ⑩翔鶴の松
法然上人から始まった浄土宗が大きく羽ばたき発展していく姿を表す。

A. 幼少時代 美作の国(岡山県)

- ①父 漆間 時国
武士で美作の国久米南条稲岡庄の押領使。勢至丸9歳の時に夜討ちに会いその傷がもとで死す。臨終の際に勢至丸を呼び「敵人を恨む事なかれ」と遺言し出家させた。
- ②母 秦氏
名前ではなく一族の名前。有力な帰化人で養蚕・機織りに活躍していた。
- ③勢至丸
長承2年(1133)4月7日正午、漆間時国と秦氏の長男として生まれる。9歳の時、父の遺言により出家する。
- ④観覚
勢至丸の母の弟で元は比叡山の学僧であったが、南都で法相を学び美作の国奈義町の菩提寺の住職となる。
- ⑤勢至丸
父の遺言により菩提寺の観覚の元で出家し学問を教わる。(9歳～15歳)

監修 坪井 俊映 法主台下
命名 芳井 秀教 執事長
構成 橋本 周現 執事
作庭 植彌加藤造園株式会社
(創業嘉永年間1850年)